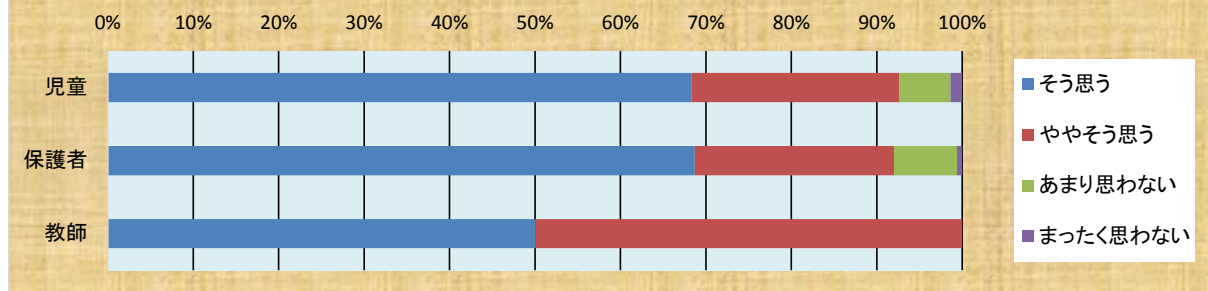


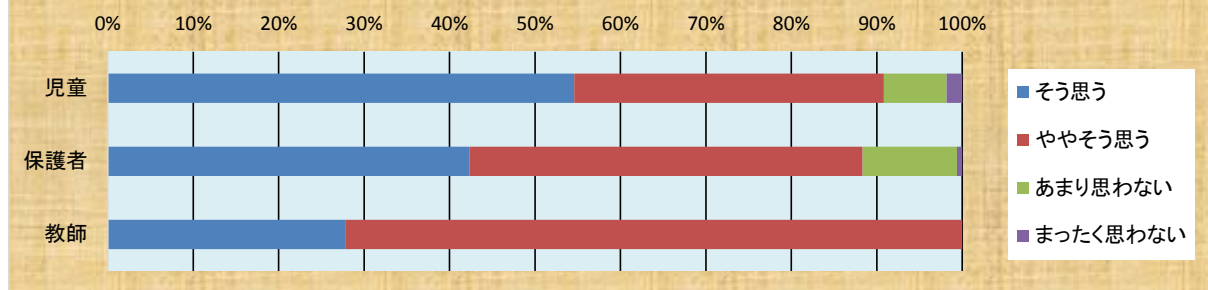
## 「学校評価・教育活動等に関するアンケート」保護者・児童・教師比較結果

### 1 学校は楽しいですか



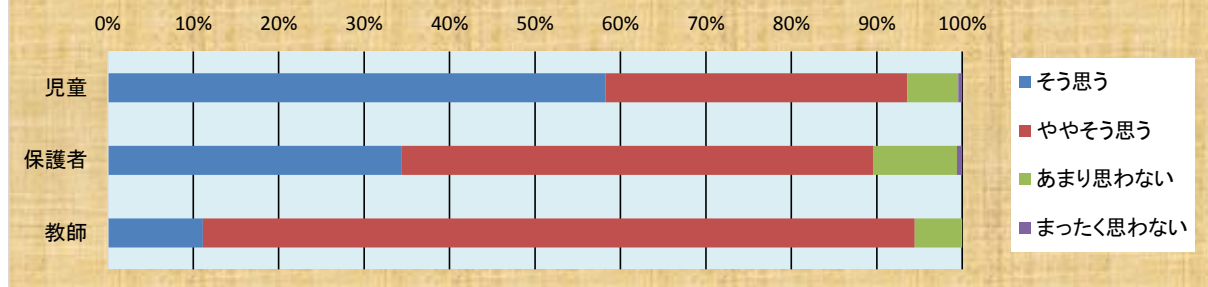
設問1「学校は楽しいか」に対して「そう思う」「ややそう思う」と肯定的な回答が保護者、児童、教師ともに9割を超えている。学校が楽しいと感じる要因には様々なことが考えられるが、これからも、わかる・楽しい授業づくり、学校行事などの充実を進め、すべての児童が楽しく感じる学校にしていきたい。

### 2 授業は楽しいですか



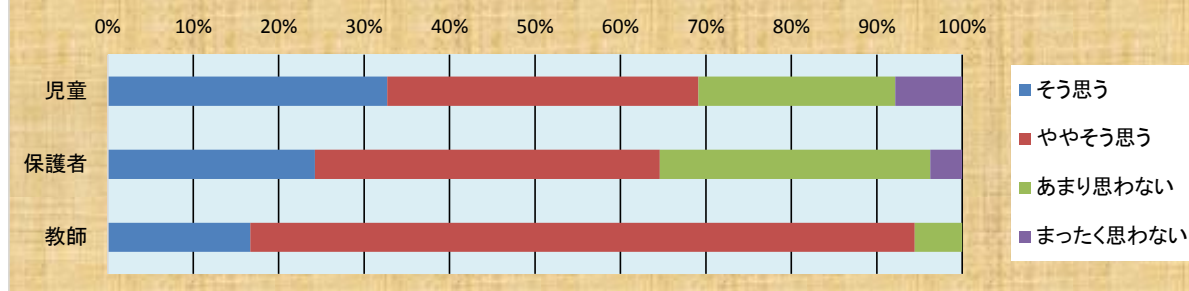
設問2「授業は楽しいか」に対しては、保護者、児童の9割近くが良い評価をしているが「あまり思わない」「まったく思わない」という回答も皆無でない。今後はこのことを真摯に受け止め、「誰もが楽しい」と感じられる授業をめざしたい。

### 3 授業の内容はわかりますか



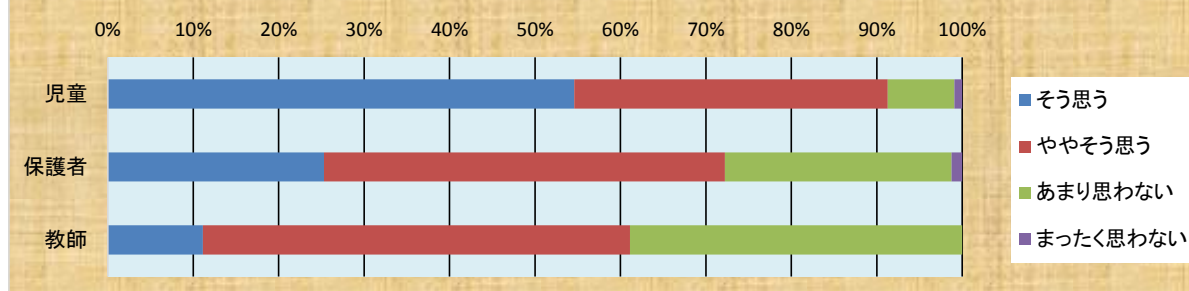
設問3「授業の内容はよくわかるか」に対しては、肯定的な回答が児童、教師ともに28年度よりも7ポイント(H28 87%)伸び、9割を超えている。今後も研鑽を重ね、教師一人ひとりの授業力を高めていきたい。

#### 4 授業中進んで発表しますか



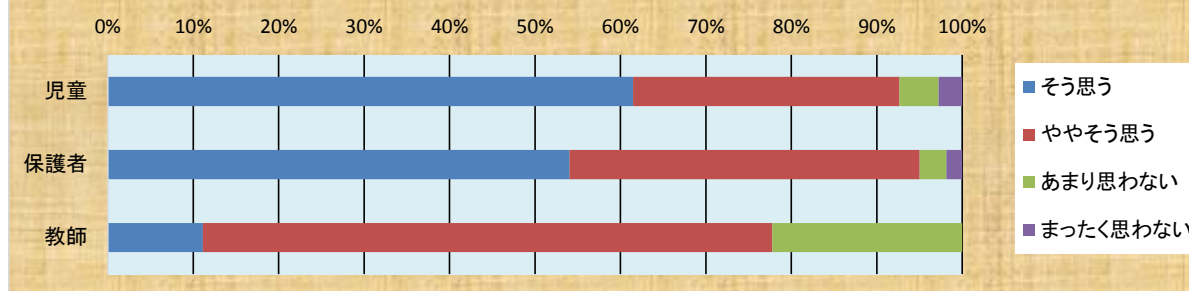
設問4「授業中進んで発表するか」に対しては、保護者、児童ともに3割前後が「あまり思わない」「まったく思わない」と回答していることから、今後も児童が「いかに学ぶか」児童を「いかに学ばせるか」などの視点から、授業への参加度を高める工夫をしたい。

#### 5 先生や友達の話をしっかり聞くことができますか



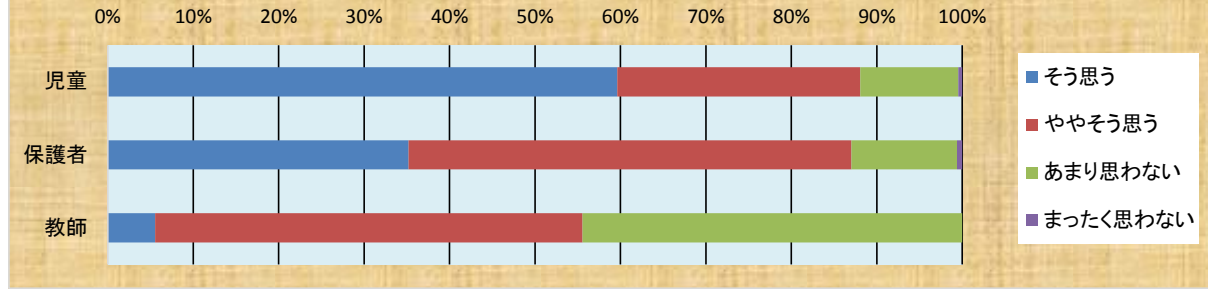
設問5「先生や友達の話をしっかり聞くことができるか」に対しては児童の肯定的な回答が多い一方で、教師、保護者の側からみると一概にそうとは言い切れない。今後も授業や集会などを通して、他人の話をしっかり聞く姿勢を涵養したい。

#### 6 学校のきまりを守っていますか



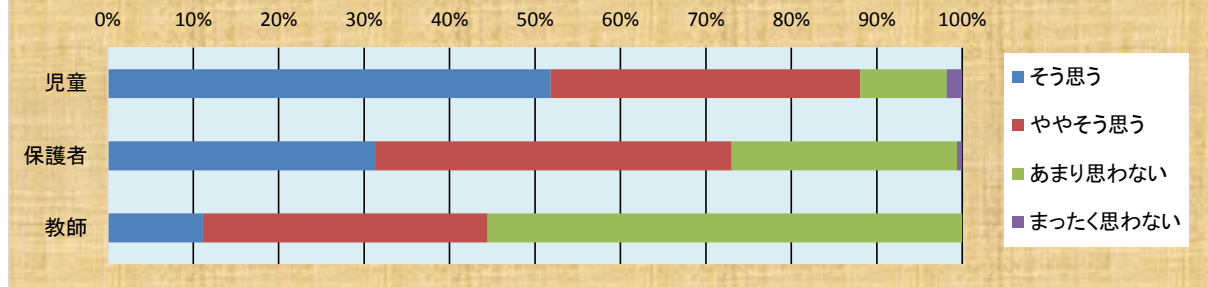
設問6「学校のきまりを守っているか」については保護者、児童ともに肯定的な回答が多く、きまりを遵守しようとする意識が高い。教師のねばり強い指導が浸透しつつあることがわかる。

## 7 学校であいさつや返事ができていますか

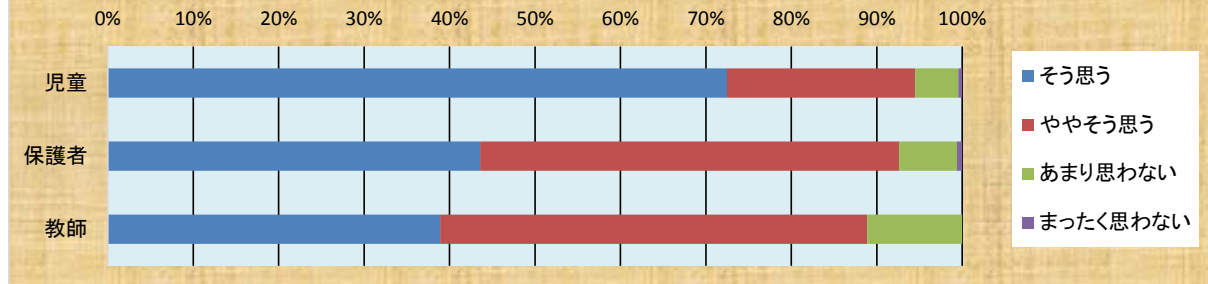


設問7「学校であいさつや返事がしっかりとできているか」は、児童、保護者ともに肯定的な回答が8割を超えている。今後も教師自らが率先してあいさつを行い、集会や各学級においてその大切さを伝えていきたい。また、児童会やPTAによるあいさつ運動などを積極的に進め、地域の方々にも毎日元気にあいさつのできる子どもを増やしたい。

## 8 持ち物をきちんと持ってきていますか

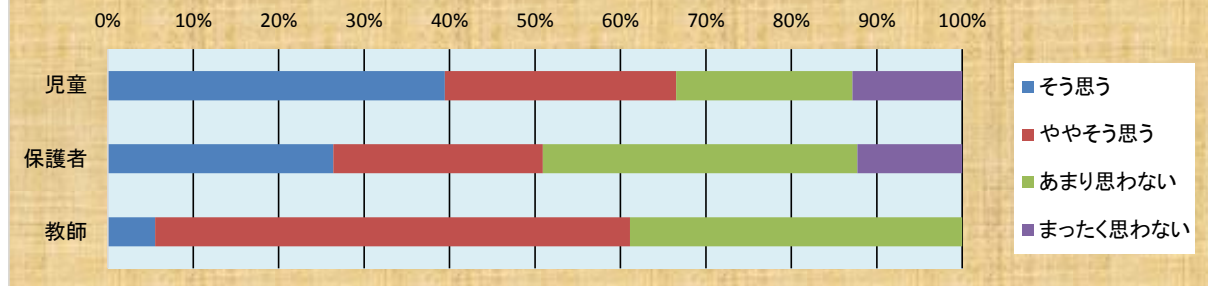


## 9 時間のけじめをつけていますか



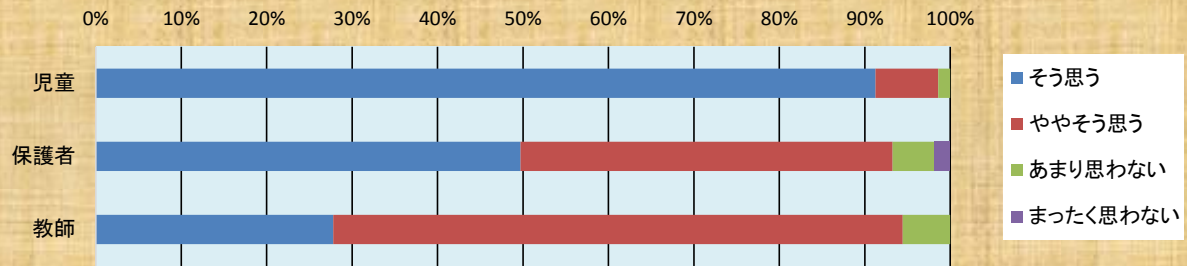
設問8「持ち物(忘れ物)」に関しては教師からの評価が学校生活での実態を表している。設問9は9割近くが良い評価をしている。忘れ物によって学習活動や当番活動に支障をきたすことがないよう、また、より授業にしっかり取り組めるように、学習規律の徹底と時間順守を意識させながら、基本的な生活習慣が身につくよう指導を重ねたい。

## 10 読書をすすんでいますか



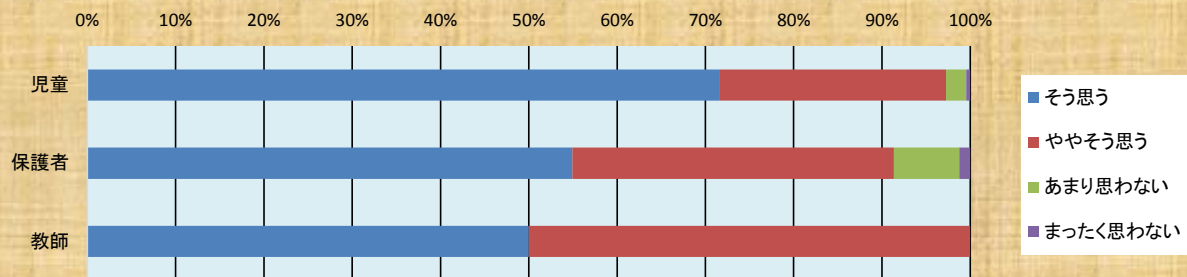
設問10「読書」については残念なことに3、4割の児童が「読書ばなれ」の状態を表している。ゲームやインターネットの普及など様々な環境の変化も要因の一つと考えられるが「読書は心の栄養」を合言葉に、今後も学校においては朝読書や読書週間、読み聞かせ、星取表、多読賞など、さまざまな啓発活動に継続して取り組みたい。また、家庭においても親子で読書に親しむ時間を作り出していただけたらと思う。

## 11 仲の良い友達がいいますか



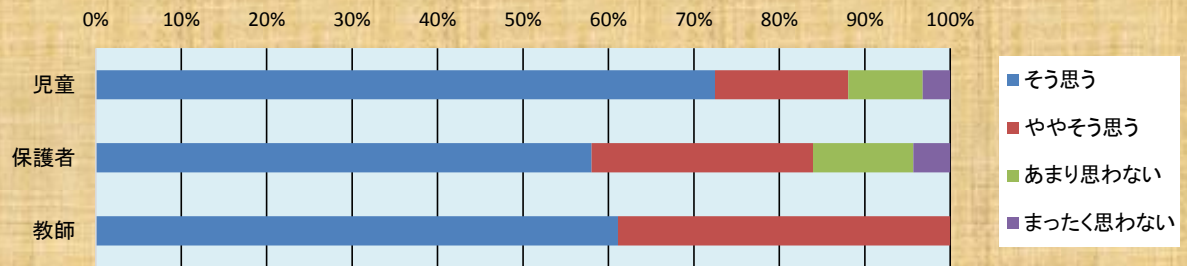
設問11「仲の良い友達がいるか」については、児童、保護者、教師ともに肯定的な回答が9割を超えている。今後も児童の人間関係の変化に気をつけながら、学級における温かい人間関係づくりや、異学年が交流する活動を継続したい。

## 12 よいことをした時や頑張ったとき、先生はほめてくれますか



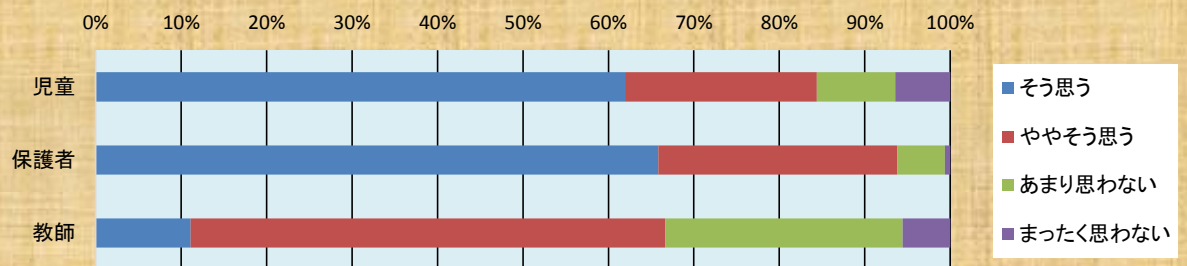
設問12「先生はほめてくれるか」に対しては、肯定的な回答が多く、概ね良好な関係といえる。しかしながら、否定的な回答の保護者、児童も少なからずいる。これからも教育相談などの機会や全職員による児童への働きかけを通して児童と教師の良好な人間関係づくりにより一層努めたい。

## 13 放課は外で元気よく遊べますか



設問13「放課は外で元気よく遊ぶか」の結果には、昨年度から始めたACP(アクティブ チャイルド プログラム)の取組が広がり、28年度よりも10ポイント以上外で元気に遊べる児童が増えた。(H28 78%→88%)放課や体育時などに思いっきり身体を動かすことにより、早寝早起きなどのよりよい生活習慣の形成を家庭と連携してめざしたい。

## 14 給食は残さず食べますか



設問14「給食は残さず食べているか」に対しては、児童や保護者は肯定的な回答が多い。今年度は調理場から残菜率第3位の栄えある賞状をいただくことができたが、これに甘んじることなく、栄養価に富み、偏りのない食事が提供される給食を体調や体質に応じて、残さず食べられるように指導していきたい。